

平成23年度第4回宝塚市パブリック・コメント審議会議事録

- 1 開催日 平成23年11月14日(月) 10時00分～12時00分
- 2 開催場所 宝塚市役所3階 特別会議室
- 3 出席者 委員8名、事務局3名
- 4 議事
 - (1) 平成22年度に実施したパブリック・コメント手続の評価(個別・総論)
 - (2) 運用状況について

○事務局 ただいまより、平成23年度第4回宝塚市パブリック・コメント審議会を開催させていただく。本日の出席者は、委員8名中8名で、過半数となり審議会は成立した。開会にあたって、会長から挨拶をお願いしたい。

○会長 (会長挨拶)
それでは議事に入る。本日の傍聴者はありますか。

○事務局 0名です。

○会長 22年度実施のパブリック・コメント手続は6件あったが、それについて評価シートと集計表に各委員で評価を記入していた。これを事務局でとりまとめたので、その資料を基に全体について評価をしていただく。事務局から評価内容を手短かに説明してもらおう。

○事務局 (評価を集計した資料の説明)

○会長 それでは各委員から、6つの案件についてのご意見を伺いたい。
全体に関するご意見は最終的に固めなければならないが、まず一人一人お伺いする。時間的な問題もあるので、全体まとめた意見をいただきたい。

○委員 はじめて評価させてもらうが、4番の行財政運営に関する指針だが、やはり内容が難しいと思う。つっこむ部分がない。食育や教育、DVなどは身近なことなので具体的によくわかる。内容の難易度が様々なので、評価もそれにあわせてしないといけないと思う。

○委員 教育基本計画では「～努めます」「～目指します」など決意の表明の表現が多く、ほんとうにそのようにして欲しいと思った。DVは非常に分かり易く書かれており、頭にすーっと入ってきた。行財政運営は、あたりまえのことが普通に書かれていて、こんなにたくさん書かなくてもいいのではと思った。その辺の資料を集め

たらこのくらいできると思った。食育は読みやすく、市民にも読んでもらえると思った。障がい者施策長期推進計画は、地域福祉計画などと重なる部分があり、「それはあちらに載せています」「それはこちらに載せています」という表現がある。それぞれを作成する委員がお互いに交流したら、もう少しお互いにいいものができるのかなと思った。

○委員 行財政運営は、財政なので当然数字が主に出てくると思っていたが、それが文章化されており、読んでも理解しにくかった。全体に、生活に身近なものは理解しやすい。教育振興基本計画は、先ほど〇〇委員が言われたように、言葉が未来系であった。「～します」という断定的な言葉は行政としては使いにくいのかもかもしれないが、もう少しはっきりとした表現があってもよかった。

○委員 個人的に特に興味があったのはDV対策基本計画だが、被害者中心の記述になっていた。加害者に対するケアの問題などをもう少し具体的に進めてもらえたらと思う。障がい者施策長期推進計画は、障がい者に対する支援をもっと充実してもらえたらと思った。

○委員 まず、市民から意見をいただきたいと思うなら読みやすい文章であることが必要であると思う。細かいことだが、例えば「ご説明」の「ご」に漢字の「御」を使ってしまうと、見た目が硬くなってしまふ。また、「市民などの皆様からいただいた」という表現があった。通勤・通学のかたも含めるという意味だと思うが、わざわざ分りにくい表現にしている。いっそ「いただいたご意見」などの表現で十分ではないかと思う。余計分りにくくしている表現があると感じた。

また、いただいたご意見に「ありがとうございました」と一言お礼の言葉があると、読んだかたは「私の意見も受けてもらえたんだ」と喜びがあり、さらに前へ進められると思う。それも一つの姿勢として持っていてほしい。

障がい者施策長期推進計画は、弱いかたに対して市からの暖かな手をさしのべるはずなのに、やはり文章が硬かったと思う。行財政運営などはどうしても言葉が硬くなるのは仕方ないが、逆に行財政運営に関する指針のほうがやわらかかったように思う。作られたかたの姿勢が文章に出てしまうのではないかと思う。

○委員 全体的に意見提出の人数が少ないが、今後の大きな課題だと思った。意見が提出された後の回答の仕方が分り易く説明してある

かというところで、特に教育振興基本計画では「～取り組みを図っていきたいと考えています」などのとてもあいまいな回答が多かった。

また、担当者が書いて、そこで止まっているのではないかと感じられる部分があった。担当課が回答を書いているのはわかるが、市民は担当課に出したのではなく、審議会などの検討されている場にのせて欲しいというつもりで意見を出していると思う。それなのに担当者のところで止まってしまっている感じを受けるような言い回しがある。そうすると「次も出そうか」という気持ちになれない。私自身、意見が担当課で止まっていると感じた一人ということもあり、市の考え方の公表の一番最後にでも、パブコメ条例の第11条（苦情の申し出）の条文を一行入れる、などできないか、と思う。

概要版をつけているが、市民にとってはとっつきやすくよいと思う。

行財政運営の指針については、指針の段階でパブコメが必要だったのか？と思う。アクションプランが後程出るということだが、それをプラスしてのパブコメであったらもう少しわかりやすく、市民からも意見が出やすかったのではないかなと思う。どのポイントでパブコメをするのか、というのが私もわからない。その点でいうと、食育はあえてパブコメする必要があったのかとも思う。

どのパブコメも、該当の市民団体があるはずだが、そういうところへの呼びかけがなされていたのか？と思う。そういう人達の所へ届いていればもう少し意見も出てきたのではないかな。

○委員

パブコメ自体のレベルは上がっていると感じる。概要版ができ、結果についても非常に丁寧である。総体的には市も事務局もがんばってくれていると感じた。しかし今回、関係団体への呼びかけが全くできていない。これはいけないなと思う。

○会長

これは何回目かの答申のときにアピールしたと思う。それもひっくるめて評価したいと思う。

ご意見を一通りいただいたが、私も参考までに発言させていただくと、この制度は情報公開制度ではなく、情報共有、参画と協働の制度である。ここを行政が勘違いをしている、と厳しく議論したことがある。行政は、パブコメは情報公開の一手段であって、形式的に出せば情報公開が一つクリアできたというふうに勘違いしている。しかし条例では「参画と協働のための制度」となっ

いる。ということは、意見をいただくためには当事者団体にまで情報を集中的に送らなければならない、というような話をしたいきさつがある。今のような意見が出てくるということは、今後も留意しなくてはいけない。障害者関係なら、障害者団体などの当事者団体に、概要版などを送っておかなくてはいけない。中心市街地活性化の計画なら、該当する地域にはすべての世帯に配られていないといけない。従来どおりサービスセンターなどに置いてあるというのは当たり前のことであり、それだけで済むものではない。当事者団体には配る、ということはかなり前から言っているのだが、なかなか全庁的に浸透しない。

それでは一番目の「宝塚市教育振興計画」からお諮りする。ここから先は自由発言である。

○委員

以前140人委員会というのがあって、公募委員も含め、みんなで作った。その後で、「評価をしよう」と提案したが、そのときはのっていただけなかった。社会福祉協議会の計画でも、出しっぱなしではなくて評価しようと言ったが、今だにできていない。いろいろな計画のどこかに「これは5年間の計画だが3年で評価をして後の2年でできるだけがんばる」ということを書けたらいいのにと、思いながら読んだ。やはり評価をしないと、次の計画にもまた同じようなことが文章を変えて載ってくる。それでは、具合が悪いと思う。

○会長

それは全体に言えることであろう。計画を作るだけでなく、計画の進捗評価や、達成評価というものがないといけないのではないか、ということ。

基本計画そのものについてはどうか。各委員の総合評価は◎2つ、○6つ、×が0なので、どちらかというと上位グループかと思う。

○委員

先ほどの関係団体というところだが、この教育振興基本計画ならPTAなどになると思うが、審議会の委員にPTAが入っているのでそれでクリアできている、という取り組み方なのだろうと思う。他のパブコメでも、そこはそれで網羅しているとしている。しかし、団体によってはその委員の人だけで止まっている場合がある。「委員の中に入っているからOK」としない、ということを書いていかななくてはいけない。

あと、小さいことだがこの教育振興基本計画だけが、意見募集の際に(案)となっていなかった。他のは全部(案)となってい

た。

それから、これは概要版をつけていなかった。

○事務局

この教育振興基本計画のパブコメの時点まで、事務局としても「概要版を必ずつけなさい」という指導が出来ていなかった。このとき、概要版が付されていないことについて苦情申し出として出されて以降、厳しく指導するようになった。

○会長

そのときすでに行政指導されている、ということ。概要版添付は、条例改正のポイントであった。

では、◎が2、○が6つなので、二重丸では少し甘いので、○とする。

◎、○、×という評価はかなり荒っぽいけど、そこに追加意見が付いてくるので、ちゃんと伝わると思う。今日の記事録も公開されるので、大丈夫である。

○委員

教育についてのパブコメで、以前すごく意見が出たものがあったが。これは3人しか意見がでておらず、ちょっと問題ではないか。

○事務局

子ども条例の時であると思われる。各学校の生徒に意見を募集したはずである。

○委員

やはり広報が足りないのではないかと。むしろ△のほうがいいのでは。

○会長

評価が5段階くらい欲しいところである。

○事務局

次回の評価から5段階評価に修正するか検討する。

○会長

「その他関係団体への説明の有無」というのがあるが、この当事者といったらやはりPTAであるから、小学校の役員さんたちに集中的に送ったのかどうか、少なくともその手続きを踏んでもらわないと大海に塩をまくのと同じことになる、ということは意見として言っているのではないかと。

○委員

審議会委員として参加している人がPTAに戻ってそこでがんばってくれればいいのだが。昔に比べるとPTAの力自体も弱まっている。

子どもの教育のことをやっている活動グループもあるので、そういうところなどにも送るべきではないかと。

○委員

地域ごとに児童館があるが、そこでボランティア活動しているかたは、教育に関してずいぶん意欲がある。そういうところにも送るべきだと思う。

○会長

1番から6番を通して全体意見として、当事者団体・関係団体

への説明は、今後徹底してやってほしい、と意見が出された、としておいて欲しい。

例を挙げてもらいたい。教育振興基本計画についてはPTA、児童館、まちづくり協議会、自治会連合会などの乳幼児・児童・生徒等に関する活動母体を持っているところ。それらに目配りをして概要版は少なくとも送る努力はしてほしい。幼稚園というのは教育機関なので当然対象である。

そういう条件を付して、一応合格ということになる。

では2番の第5次宝塚市総合計画についてはどうか。

○委員

第5次総合計画は、縦割り行政の中、各部署でよく考えている。これを評価するには、かなり読み込まないといけない。全部を読んではじめて評価できるものである。だから評価はかなり難しい。他のパブコメはそれぞれ分野が決まっているが、第5次総合計画の裾野は広く、意見を出すのも難しい。アンケートやフォーラムなどもやっていたが、参加は少なかった。非常に難しい。

○会長

そういった範囲の広さ、難しさから考えると、6人から意見が出た、というのはまあまあか。

○委員

しかし意見の内容というのが、このパブコメの内容を読んで、というものでなく、それ以前の意見というのが多く、もっと検討の途中の段階での公開が必要だったとは感じた。そのためには、ワークショップや公開討論会という形で意見を聞く機会が必要で、パブコメだけに頼るのは難しいことであったように思う。

また、意見のまとめ方がとても読みづらかった。「本市の考え方」で羅列されているが、何ページに書いてあるのか、照らし合わせるのにとても時間がかかった。自分の意見が結局どこに書いてもらえたのかというのがわかるように、ちゃんと書いてあげるべきだと思う。1つか2つは、「これはどこに入れてあるんだろう」と、わからずじまいのものもあった。

計画案にないことへの意見、例えばごみのことなどが出ていたが、そういうものは別枠で「その他の意見」というふうにとまとめるようにすれば読みやすくなるのではないかと思った。とても分かりづらかった。難しいとは思いますが計画案に市民の意見を入れるというのはすごく大きいことなので、ジャンルを区切ってパブコメしたほうが良いのではないかと思う。

○委員

これを見ると、パブコメが終わってから、審議会で提出意見以外の部分を修正している。その旨を結果のところには書かないとい

けない。市民の意見が出て、あとでもう一度審議会したときに修正されている。

○会長 まず、パブコメで意見を募集する段階で、「ここまでできました」という歴史、「これまでの経過」的なものが必要なのでは。パブリック・コメントに至るまでに、途中でたくさん市民参画しており、審議会という形でもやっているはず。その間、すごい時間かけて原案を作っている。そのプロセスを経て、いよいよここでパブコメにかけます、と出したほうが良かったのではないか、ということ。いきなりパブコメしているように見える。

○委員 この計画を作るにあたって、どれだけ手順を踏んだかが市民に伝わると、もっと分りやすく、親しみやすくなると思う。ここまで検討されているんだ、とわかってもらえる。それぞれに関わったグループがあればその名前を書くなど、こういう人達が携わっているんだとわかるといい。

○会長 そのことが1枚目に書かれていれば、やみくもにパブコメを始めたわけではない、ということが分る。これは条件というよりも助言である。手続き的にはこれでいいが、関わりの深さを示したほうがいいのでは、ということ。市民の参画と協働を促す制度なので、そのプロセスを書くことはむしろ望ましい。

○が7つあるので、これも○としておく。

では3つ目の宝塚市DV対策基本計画に入る。これは非常に評価が高い。分りやすい、という意見が委員からも出ている。

○委員 意見を求めています、というメッセージが伝わってきたように思う。

○委員 被害者に対するケアという内容があったが、加害者についても具体的にあったほうがよかった。ただ、DVについては、意見が多すぎると問題が多いということになるのでは。

○委員 意見が多い、ということは当事者が多いということではなく、もしかしたら当事者になるかもしれないという関心度であると思う。

○会長 加害者とならないための啓発が必要。そういう記述がもう少し欲しかった、ということ。

○委員 このパブコメは、先ほどの話で出た「これまでの経過」というものが表紙に書かれている。これがあるだけで違うと思う。

○会長 委員会としては、これは高く評価できるということで◎でよいか。

- 委員 もっと欲を言えば、「取り組みの中で検討します」という表現がいくつかあって、その後がどうなったか、というのが分かるようなシステムができないか、と思う。他のパブコメでも、こういう表現はたくさん出てくると思うが、このまま終わってしまうように思える。市民からすると、自分が出した意見に「今後取り組みの中で検討します」と答えをもらったら、いつどうなったのか聞きたい。
- 会長 「その後がわかるシステム」とは評価をする、ということだと思う。
- 事務局 市のほうで、事務事業評価というのをやっている。毎回、その評価を議員に審査してもらっている。決算特別委員会などその書類を提出して、厳しい意見をいただいている。
- 会長 これは◎でいいと思うが、あえて全体評価に委員の意見を入れるとすると、加害者側になる可能性のある男性の啓発をどこがすべきなのか、となったときに、やはりまち協や自治会の力を借りないといけないのに、そこに対する説明がない。当事者団体となると人権団体や女性の権利擁護団体などになるが、そこに対する説明もない。これはまずいのでは、ということ。
- では、4番の宝塚市行財政運営に関する指針について。
- これは非常に厳しい意見をいただいている。言葉が硬い、専門用語が多い、数字を見ても分りにくい、理解しにくい、など。評価も◎はゼロ。×が3人。これは合格点をあげるのはいできない。
- 委員 予算がない、ということわかっているのに、市民も意見を出しにくいと思う。
- 会長 文字だけではなく、市の財政状況などを表やグラフを使って示せば、もっと意見も出たのでは。
- 委員 市の広報紙で何回か取り上げていたが、パブコメで「それをご覧ください」という書きぶりだった。たしかに資料をつけると膨大になるのかもしれないが、それだけでも市民にはハードルが高かった。
- 会長 意見ゼロというのは関心がないのではなく、拒否反応だと思う。もっと分りやすく説明してほしい、ということだと思う。
- 事務局 今まで「行財政改革」と言っていたがこのパブコメでは「行財政運営」に変わっている。これまで改革をやってきて、予算を削るだけ削ってきたので、後は使い方を各職場で考えなさいということを出している。

- 会長 一委員としての意見だが、一般に、改革するときは、コストダウン改革から生産性上昇改革、次に効き目のある政策にスクラップアンドビルドしていくという3段階の改革を行う。これがコストダウン改革だけで止まっている。だから職員に方向性が見えない。閉塞感を感じる。職員の生産性を上げるためには、やる気の出る仕事を、楽しく、生きがいを感じながらする、こういう方向に向けてのステップアップができていないのではないか。投資してきたけれど無駄だったので、これはやめよう、今度はこっちに投資しよう、という政策的議論ができるところまで内部組織が柔軟化していないのではないか。だからこういう定型パターンの文章しか出てこないのだと思う。聞いたことのある文章ばかりになっている。
- 委員 市民に「読んで欲しい」という熱意が感じられない。
- 委員 方向性を示すものだから、ということだろうが、「行財政運営アクションプランとしてのちに定めます」となっているがアクションプランのバブコメはあるのか。
- 事務局 ないはずである。
- 委員 指針の策定のところで、地震の影響を考えて「本指針に関しては、今後社会情勢を踏まえながら、所要の見直しを行う」という1行が入っている。逆に言えば、お金をこっちに使うから、もっと削る、というふうに書いてあるのかと思った。
- 事務局 予算がない中で何を考えていくのか、という問題なので、市民の方にアピールするのは難しい内容であった。
- 委員 「行財政改革」これに関係のない市民はいないので、市民全体に行き渡らせるには、指針そのものも、もっと分かり易い言葉でつくるべきだったのではないか。「減量型行財政改革の限界を踏まえ」という言葉でいきなり始まっている。ここを読んだだけでも、宝塚市はどうになってしまうのか、という暗い気持ちになってしまう。その先まで読めない。本当に市民の皆さん全員に読んで欲しいという気持ちがあったのか、と思う。
- 会長 「概要版」という意味を取り違えていると思う。概要版を、薄くした「簡略版」だと誤解している。概要版というのは構造を理解させるもの。詳しいデータは要らない。これは「縮小版」になってしまっている。短くしているだけ。
- なぜ行財政改革が必要なのかは、収入と支出の関係、経年変化などを説明する必要があるし、こんにちまでやってきた努力も書

けばいい。「それでもまだ展望が厳しく、引き続き努力が必要であり、市民参画と協働によって改革していこうと思っている。」と言いながら、参画と協働の中身はぜんぜん書いていない。行政の力と住民自治の参画と協働をあわせて、どのようにコストダウンとパフォーマンスアップを図るのか、それを示さない限りこれは答えようがない。行政の閉じられた壁の中での改革計画となっている。だから市民が反応できない。結果、評価は×となる。

では5つ目の宝塚食育推進計画。これは評判がよかった。読んでいて楽しかった、という意見。また分かりやすい、という意見もあった。

これは○でいいのでは。

では6つ目の宝塚市第4次障害者施策長期推進計画。これは、委員の評価では×が2つついている。

○委員 決定的なのはやはり関係団体への呼びかけがない、ということ。それが大きい。関係団体が明らかにあるのだから、そこに意見を聞かないと。

○会長 障害者施策は、絶対に当事者団体の意見を聞かないといけない。という意味では×。

○委員 内容よりも、手続き的に×ということ。
今年気が付いたのは、すべてのパブコメに「用語の解説」が付いている。これはいいことだが、最後に「何ページに使われている」ということが書いているが、使い勝手としてこれでいいのか。これで良しとすると、今後どこもこの形でつけてくると思うが。

○会長 文末にまとめて書くのではなく、「用語解説は該当ページの直近のところに入れる」ということにすればいいのでは。

○委員 それがいいと思う。いちいち後ろのページをひっくり返して見るのは面倒である。

○委員 第5次総合計画などは、該当ページの下に用語解説が載っている。

○会長 用語解説は文末などにまとめるのではなく、一番最初に出てきたその下に書くよう配慮して欲しい、ということにすればいい。

それでは次に、パブリック・コメントを実施すべきであったのに実施しなかった案件はないか。漏れがないかどうかを確認していきたい。

平成22年度に、都市経営会議に提出した議案の一覧表を作成してもらっている。事務局からこの一覧表について説明してもら

う。

○事務局

(資料について説明)

○会長

7番を除き、いずれもパブリック・コメント条例上、手続きを行う必要がないものに該当する、という判断はされている。7番の財産(スポーツ施設等整備事業用地)の取得についてのみ、時間的に間に合わなかった、という理由で「周辺住民の方々やスポーツ関係者などに、適切な管理運営に向けて説明を行った」ということで了解を求める、ということである。

○委員

これを読むと仕方がないと思わなければいけない感じだが、もともとは大きな事業のときにこそ市民の意見を入れたい。もし失敗したときに、責任は市民に帰ってくる。行財政改革で「お金がない」などと言っているときで、正しい判断だったのかもしれないが、市民からOKが出された、ということで取得をしていくようにしてほしい。財産の取得は結構いつも音楽学校の買取も知らないうちに決まっていた。やはり地域の方は説明を受けたとおっしゃるが、市民全体から見れば知らないうちにまた買った、というイメージがある。自分は温泉の問題からすでに、なんで市民の意見の入らないところで勝手に決めて失敗すると市民が責任をとらないといけなくなるのか、という疑問があった。なにか方法がないのかと思う。

○委員

この地域に住んでいるので、市が買ってくれたのは本当にありがたいが、決して安いお金ではないので、正直もう少し値切れなかったのかと思う。4億5千万円が妥当だったかというのは、近隣の住民にも意見は分かれるところである。

○委員

大きな額になってくると、議会のチェック機関がある。議会と市民と行政のトライアングルがきちんそれぞれ役割を果たし、市民もちゃんと参加していくことが大事。パブリック・コメントも役割があるとは思いますが、この件については、議会がコントロールした、ということでもいいと思う。

○委員

事業計画は出さないといけないが、金額の一つ一つはパブコメにかけても機能しないように思う。急がないといけないのは分る。本来なら事業計画立ててから購入になるが、ここに土地があるからまずこれを押さえておかないと計画できない、というのがあり、手をうってしまったのだと思う。そのときにパブコメが必要だったかという、それは疑問だ。

○会長

買う買わないのパブコメではなく、事業計画の段階でのパブコ

メが必要であった。

購入の検討時点では用地買収計画も決まっていないから構想自体も出ない。まず土地を買ってから、「この件に関しては急ぐので、パブコメはできない」として、その後構想が出来た、と話が全部ひっくり返ってしまっている。それでいいのか、ということ。取得について相手方と交渉する以前に、「どう転ぶか分からないが、A案B案C案とある。土地は買わざるを得ない」という構想を明らかにするべきであった。それなしで交渉していたのであれば、ちょっとアンフェアなんじゃないか、とは取られると思う。

○事務局

市としては、土地の情報が入ってきたときは、これを業者が買うと大変なことになると、開発を阻止するのにすぐに走った。また、スポーツの施設が足りないということで、スポーツ団体からは以前から要望を受けていた。総合的に考えて、議会との話の中で、反対もあったが、購入が決まった。

○会長

今回のこの件については、意見もあると思うが、パブコメ手続きが間に合わなかったことには妥当性がある、と答申せざるを得ない。これでひととおり評価し終わった。

○事務局

今年のパブコメだが、「都市計画マスタープラン」と「都市景観条例」の2つについての意見募集を行った。前の審議会委員に出していただいたパブコメ活性化策の中で「統一した表紙を作ったらどうか」という意見と「副題を全面に出して、もっととっつきやすいものにするべき」という意見があった。できるものは取り組んでいこうということで、黄色の表紙で統一した。また副題を大きくここへ書き込んだ。関係団体には積極的に足を運んで欲しいということもしっかり伝えて、まちづくり協議会に対して説明に行き、意見をくださいとアピールした。結果、「都市景観条例」については従来とあまり変わらず3人から7件の意見であったが、「都市計画マスタープラン」には13人から64件の意見が出てきた。少し市民参画を得られたのかと、事務局としてもうれしいところである。以後のパブコメについても活性化に向けて協力してもらおうようがんばっていきたい。

○会長

今日、全体評価をいただいたので、その結果を踏まえて、皆様のご意見を整理した上で答申文を作成する。その答申文は会長職務代理者と事務局と私のほうで原案をつくるということでご承諾いただきたい。最終成案になる前に、各委員にお配りするので、またご意見をいただいて、それをまとめて、後日市長に答申する

という流れになる。

では次回は平成24年1月23日（月）午前10時から、よろしくお願ひしたい。